

＝市民の声募集中＝

今回も4人の方に市民の声をお願いしました。現在市民の声を募集しています。お問い合わせは広報委員会までお願いします。

議会広報特別委員会 ☎42-6310

市政に思う

市民の声

住み良い地域を目指す



沖美地区民生委員
児童委員
後河内 光明

私は民生委員・児童委員を引き受けて10年ほどになります。活動の中で感じたことを述べてみます。民生委員・児童委員は厚生労働省の委嘱を受けて、全国で無償ボランティアとして活動しています。ですが、主な役割は担当する地域の人々が日々安心して暮らせるよう、生活上の悩みや困り事の相談に応じることです。その他に自主活動として、様々な取り組みをしています。

その中でも重要な取り組みに、「高齢者見守り活動」があります。少子高齢化社会、それに伴う過疎化の波は、全国に広がっていますが、「江田島市」も例外ではありません。私の地域でも一人暮らしの高齢者は増え続けています。これら高齢者が安心して暮らせるように、見守りや手助けの活動に取り組んでいるのですが、私も後期高齢者となる日が近づくにつれて、気力・体力の衰えは否め

ず、後進に託す時期ですが後継者不足は顕著であり、今後の民生委員・児童委員の活動に不安を感じています。しかし、時間は止まってはくれませんが、地域の生活不安をなくすため、地域の「きずな」をより強くし、共助の取り組みが強く望まれます。共助の推進体制が必要と感じています。これからも健康に留意して、地域の皆さんと協力して、住み良い地域を



維持できるように努力したいと思います。

島で「若い」を迎えるために



大柿地区民生委員
児童委員
山崎 進

早いもので江能4町が合併し、「江田島市」となって10年が経ちました。人口はだんだんと減少し、「市」が維持できるか懸念されており。私の10年の「民生委員・児童委員」活動においても担当世帯数が19%も減少しており、その世帯状況は老人夫婦、独居老人の世帯がほとんどで、昔のような3世代同居の世帯はほとんどありません。こうした高齢者の方は、生活、健康、福祉、家族関係等に課題を内包し、

生活力が段々と低下してきております。しかし、他人に迷惑を掛けたくない気持ちや強く、援助や依存の「SOS」を発信することに躊躇されておられ、若い世代に頼りたくないという気持ちとギャップを感じるところです。今日、「乾燥社会」、「老人漂流社会」、「老人破産社会」と響きの良い言葉が流布しておりますが、動物の中で老いた仲間を支えるのは人間だけであるとも言われ、今日ほどこの特色を

生かし、助け合いながら生きていかなければならない時代になったと強く言えます。そのためにもこれまでの長い人生を、「島」のために尽くされ、終のすみかを「島」と決めた高齢者の方が生きがいを持ち、自分らしい暮らしを最後まで続けることができる体制づくりが求められるところです。この6月に「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律（医療介護総合

推進法）が制定されました。江田島においても、多様な高齢者の問題について、この法に基づき適正な対応をするためのシステムを早急に作っていただきたいと思っております。同時に、住民連帯を強めたコミュニケーション作りが必要であると思っております。そのためのご支援、ご尽力をお願いいたします。

民生・児童委員としての悲しい体験



江田島地区民生委員児童委員
里田 誠二

「わしゃーここで死ぬる。」これは、私の受け持ち区で、昨年6月に83歳で亡くなった男性が言い続けた言葉です。炊事、洗濯はもちろん、買い物も満足に出来ない状態での一人暮らしでした。亡くなる3ヶ月前に転倒して歩行困難になり、その後はほとんど入浴もせず、じっとして時を過ごすようになりました。必然的に室内は乱れ、強い異臭もするようになっていたのです。

心配する人が、口々に介護施設への入所や、介護サービスを受けることを勧めても、頑として受け入れようとはしませんでした。また、親族があちこち相談に赴いても本人が同意しない限り、介助することは難しいということになり、結果的に本人が望んだような形で死なせてしまふことになったのです。助けたいと思う人を助けられなかった現状のほどかしさや、自分の力不足を痛感しました。

私達は、本当に困っている人と、直接触れ合わなければならぬ立場にあり、日々弱っていく人を目の当たりにすることは大変辛いことです。手助けを希望していても、本当に困っている人に対しては、積極的に手を差し延べることが出来る対策や、体制作りが必要ではないかと考えます。民生委員・児童委員はある程度の専門的知識が必要で、かなり重要な職務の遂行が求められるこ

ともあるボランティアですが、全員が真剣に取り組んでいますので、ご理解とご支援をよろしくお願いたします。



民生委員・児童委員活動で思うこと



能美地区民生委員児童委員
米原 弘子

私は、平成19年から民生委員・児童委員をしています。委員会活動のひとつに担当地区の高齢者世帯、一人暮らし高齢者の見守り訪問があります。「こんにちは、お元気ですか？」と安否確認に伺うのですが、「ありがたいね」ともすまない喜びや励みになっていきます。東日本大震災以降、広島豪雨災害や長野県北部地震など相次いで自然災害が発生し、高齢者の被

災も報道されています。民生委員活動で「災害時ひとりも見逃さない」取り組みとして、社会福祉協議会・行政と連携して要援護者名簿の作成を行っているのですが、平時から見守り訪問で把握している実態を隣近所・自治会・女性会など地域の人や行政がしっかりと共有して、いざというときに備えなければと強く思います。江田島市での「多世代つながるまちづくり」研修や、岩国麻里布地区民生委員・児童

委員との交流会を通じても災害時の地域のつながり、支え合いがいかに被害を少なくできるか学びました。議員の皆さんには、今後さらに高齢化が進むであろう江田島市において、孤立しがちな高齢者等を地域で支える大切さをご理解いただき、共に地域と行政をつなぐ太いパイプ役として、まちづくりの声を市政に反映できるよう、地域に根ざした活動に尽力していただきますようお願いいたします。

